



北アルプストレイルプログラムについて

中部山岳国立公園



- 1. 本日のスケジュール**
- 2. 中部山岳国立公園の概要**
- 3. 登山道の現状と課題**
- 4. 北アルプストレイルプログラムの概要**

1. 本日のスケジュール

時間	内容
13:05-13:20	北アルプストレイルプログラムの制度紹介
13:20-13:40	事業報告①_朝日岳方面山岳遭難対策協議会
13:40-14:00	事業報告②_宇奈月方面山岳遭難対策協議会
14:00-14:20	事業報告③_立山ガイド協会
14:20-14:30	質疑応答
14:30-14:50	事業報告④_薬師トレイルクラブ
14:50-15:10	事業報告⑤_雲ノ平トレイルクラブ
15:10-15:30	事業報告⑥_三俣山荘
15:30-15:40	質疑応答
15:40-15:50	休憩
15:50-17:25	グループワーク
-17:30	閉会

2. 中部山岳国立公園の概要

2. 中部山岳国立公園の概要



日本を代表する傑出した山岳景観

－ 息を飲む山並みと溪谷美、そしてライチョウの世界に－

指定：昭和9年12月4日

面積：174,323ha（国内3番目の広さ）

＜主な特徴＞

● 3,000m級の山々で構成され、日本百名山15座を有する。

白馬岳などを有する後立山連峰、劔岳・立山などを有する立山連峰、槍ヶ岳などを有する穂高連峰、最南部にそびえる乗鞍岳など

● 多彩な山岳景観を有する。

大規模に切り立った岩壁、深く険しい溪谷、高山帯のお花畑、夏まで残る雪溪や氷河が削ったU字谷、火山が作りだした湖や溶岩台地など

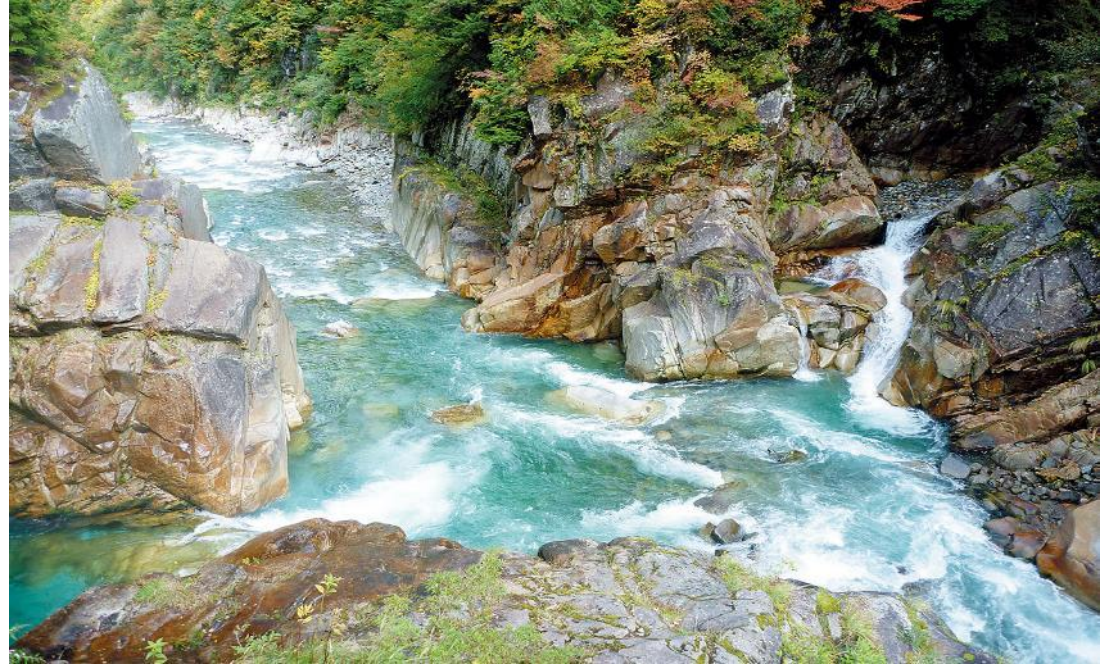
2. 中部山岳国立公園の概要



2. 中部山岳国立公園の概要



2. 中部山岳国立公園の概要



3. 登山道の現状と課題

3. 登山道の現状と課題



3. 登山道の現状と課題



3. 登山道の現状と課題



登山道

機能・役割

自然体験の提供

目的地への誘導
(遭難リスクの低減)

最低限の安全の確保

景観、自然環境の保全

特性

自然影響を強く受ける
(雨・風・雪で路面が変化)

地形・地質の制約が大きい

植生・地形が脆弱

自然と人為の相互作用により、
変化し続ける

自然景観と調和した整備が必要

アクセス困難で、維持負担が大きい
(費用・運搬・人員確保等)

3. 登山道の現状と課題



土壌侵食と木道の傾倒



登山道の洗堀・拡幅



管理不足による植生繁茂



大雨等による施設の流出



土砂崩落による倒木



施設の老朽化

3. 登山道の現状と課題

現状

- ・富山側の登山道は約300km。管理者不在区間もあり
- ・行政、山小屋、民間団体の協働で維持管理
- ・地形、地質、アクセス条件により作業負担が大きく異なる

課題

- ・人材不足
(作業、担い手不足)
- ・資金不足
(更新、維持費用の不足)
- ・情報不足
(登山道の現況把握とデータ管理が不十分)

結果

- ・更新、維持作業が追いつかず荒廃が進行
- ・転倒、遭難リスクが増大
- ・自然環境の劣化
- ・利用体験の質の低下



利用者にも協力いただく仕組みを導入
(北アルプストレイルプログラム)

4 . 北アルプストレイルプログラムの概要

4. 北アルプストレイルプログラムの概要

■内 容

持続可能な登山道維持の実現を目指し、利用者にも登山道維持の取組に参加いただく制度

■対 象

中部山岳国立公園内における登山道

■開始時期

令和3年度から実証実験を踏まえ順次開始
富山県側は令和6年度から開始

■運営者

北アルプスの4つの山域ごとの協議会
(行政、山小屋事業者、民間組織等が参加)

■協力のあり方

- ①現状を理解する。
- ②費用面で参加する。
- ③労働面で参加する。
- ④登山行動を見直す。
- ⑤登山道の状況を報告する。
- ⑥利用者として意見を届ける。
- ⑦取組を広める。

＜利用者参加型イメージ＞



4. 北アルプストレイルプログラムの概要

■ 活動を支える協力金について

主に登山道の維持補修事業に活用する目的として、任意で協力金を受け付けています。

<概要>

- ・支払方法：現金、銀行振込、クレジットカード。
- ・金額：1口500円～（任意）
- ・募集期間：通年受付。
- ・管理者：各山域の登山道等維持連絡協議会

※環境省、林野庁、地方自治体、山小屋事業者、
環境保全団体、民間組織等から構成。

【収受金実績（令和6-7年度実績）】

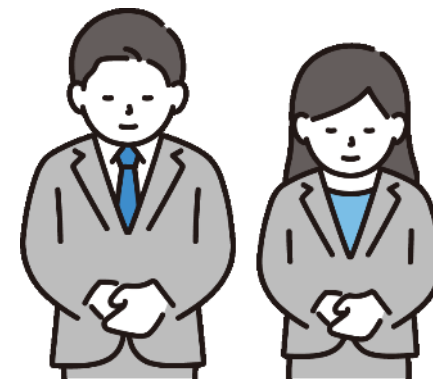
地域	収受金	
	令和6年度	令和7年度
長野県南部	¥2,703,818	¥4,037,056
岐阜県側	¥617,349	¥477,274
富山県側	¥7,649,243	¥1,064,802
長野・新潟県側	—	¥326,311
合計	¥10,970,410	¥5,905,443

※令和7年度は令和8年1月14日時点

中部山岳国立公園



ご協力のほどよろしくお願いいたします。



4. 北アルプストレイルプログラムの概要

■トレイルプログラムの実績例

○登山道維持管理支援事業

行政等による維持管理費用が不足している又は充てられない区間における、登山道の点検、草刈、雪切、支障木の伐採、施設の簡易補修、土砂崩れの復旧などの作業を実施。

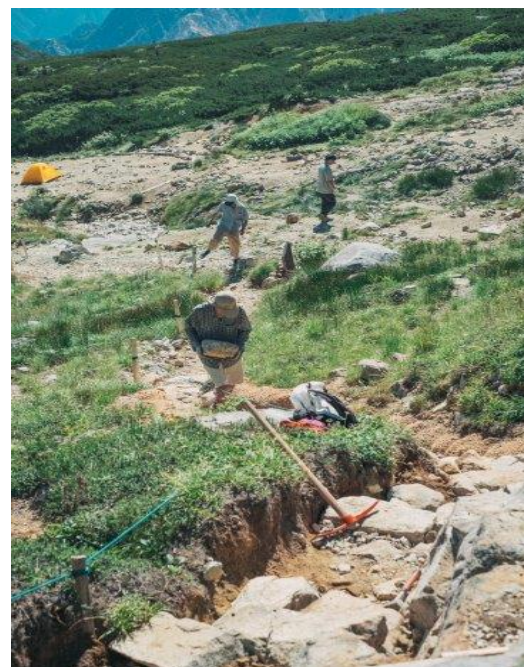


施工前

施工後

○人材育成（確保）支援事業

既に登山道やその周辺の植生復元に取り組んでいる山小屋や民間団体の保全施策に対して、一般の方を呼び込み、登山道の理解醸成と各種作業における労働力を確保するための取組を実施。



ご清聴ありがとうございました。





北アルプストレイルプログラム 朝日岳方面の取り組み実施報告



朝日岳方面遭難対策 協議会 山岳救助隊

R5.12.9-10 冬季ミニ訓練
国立登山研修所にて

雪倉岳避難小屋 雪倉岳

Image © 2026 Airbus

Google Earth



朝日小屋 (2140m)

どこから歩いていても遠い山小屋

- 朝日町北又 (700m) から7時間
- 新潟県蓮華温泉 (1475m) から8時間20分
- 白馬岳山頂 (2932m) から7時間30分
- 親不知 (0m) から拇海新道を経て21時間



白馬 蓮華温泉 ロッジ

フロント
売店

白馬
蓮華温泉 ロッジ

ザックの大きさは60ℓ～100ℓ
重さは20キロ～30キロオーバー
となります



非常に時間のかかる作業で先に進めない



直径30cmを超える木が多く倒れているのでチェーンソーが大活躍



下の道にかかった！
仕事が増えた！これも処理しなければ。。。。



一般登山者が安全に通行
できるかどうかが大切



ベンガラでマーキング





大きめの石にピンクテープ
を巻いて目印に





硬い雪と氷！



雪溪切り完了



登山道はここ



18 : 00 全員が避難小屋に到着
1日目が無事終了





白馬連山高山植物帯

天空の花園





視界不良になるとマーキング
だけが頼りになる



視界不良時も安心して歩ける
ように○印でマーキング



道間違いの×印



中途半端な倒木が一番危険！







ロープにて補修



登山道





直径 50 cm以上の倒木







急傾斜での雪溪切り









壊れた木道や傾いた木道は
転倒の危険性！









北アルプス 朝日小屋
富山県白馬朝日岳 自然物保護増殖管理セ



朝日岳を中心に北アルプスを愛する熱い想いを
次世代につなぎ道をつないでいきたい

ご清聴ありがとうございました。



宇奈月方面遭難対策連絡協議会

令和7年度活動報告

①



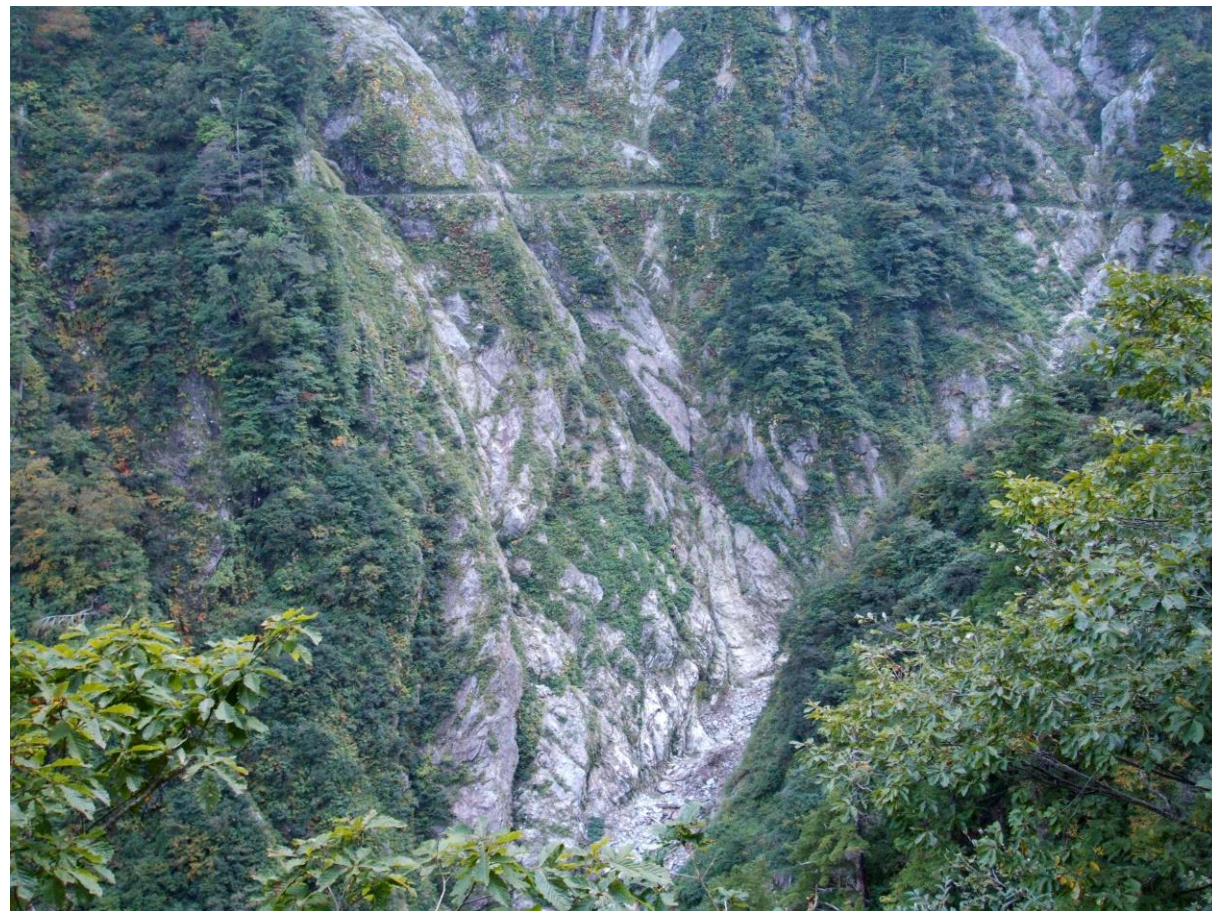
②



③-1



③-2



④



5



⑥



7



8



令和7年度 北アルプストレイルプログラム 事業報告

一般社団法人立山ガイド協会



事業目的

立山劔岳周辺の登山道維持のための山岳ガイドの派遣を行い、山小屋の作業負担を軽減し、国立公園の利用施設である登山道を持続可能な維持体制とすることを目指し実施する。

事業概要

1. 大日岳縦走線歩道 (奥大日岳～雷鳥沢)

雪溪切り等の整備

2. 立山槍ヶ岳縦走線歩道 (鬼岳周辺)

雪溪切り等の整備

3. 内蔵助平線歩道 (内蔵助分岐～内蔵助山荘)

木、転石、刈払い等の整備及び施設の点検・補修

4. 仙人ダム劔沢線 (内蔵助平線分岐～ハシゴ谷乗越)

木、転石、刈払い等の整備及び施設の点検・補修

大日岳縦走線歩道 7/10-7/11 6人日



大日岳縦走線歩道 7/10 (3名)

実施位置①

登山道雪渓横断箇所のステップ切り出し・整生



施 工 状 況

施 工 後

大日岳縦走線歩道 7/11 (3名)

実施位置②

登山道雪渓横断箇所のステップ切り出し・整生



施 工 状 況

施 工 後

立山槍ヶ岳縦走線歩道 7/14-16 6人日(+山小屋8人日)



立山槍ヶ岳縦走線歩道

7/14 (2名): 下見

7/15 (2名+山小屋4名)

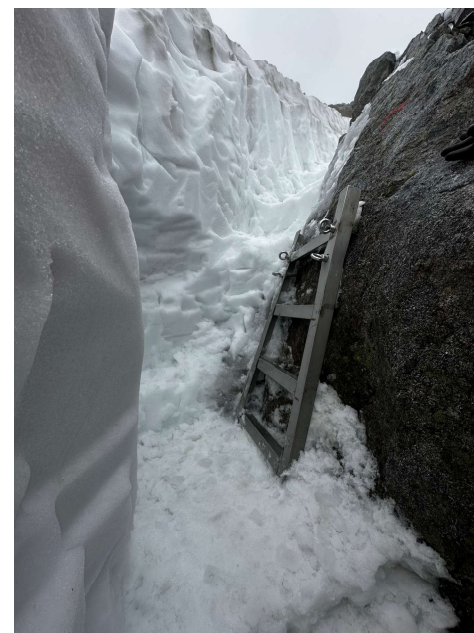
実施位置① ハシゴの掘り出し



施工前



施工状況



施工後

立山槍ヶ岳縦走線歩道 7/16 (2名+山小屋4名)

実施位置② 登山道雪渓横断箇所のステップ切り出し・整生



施工前



施工状況

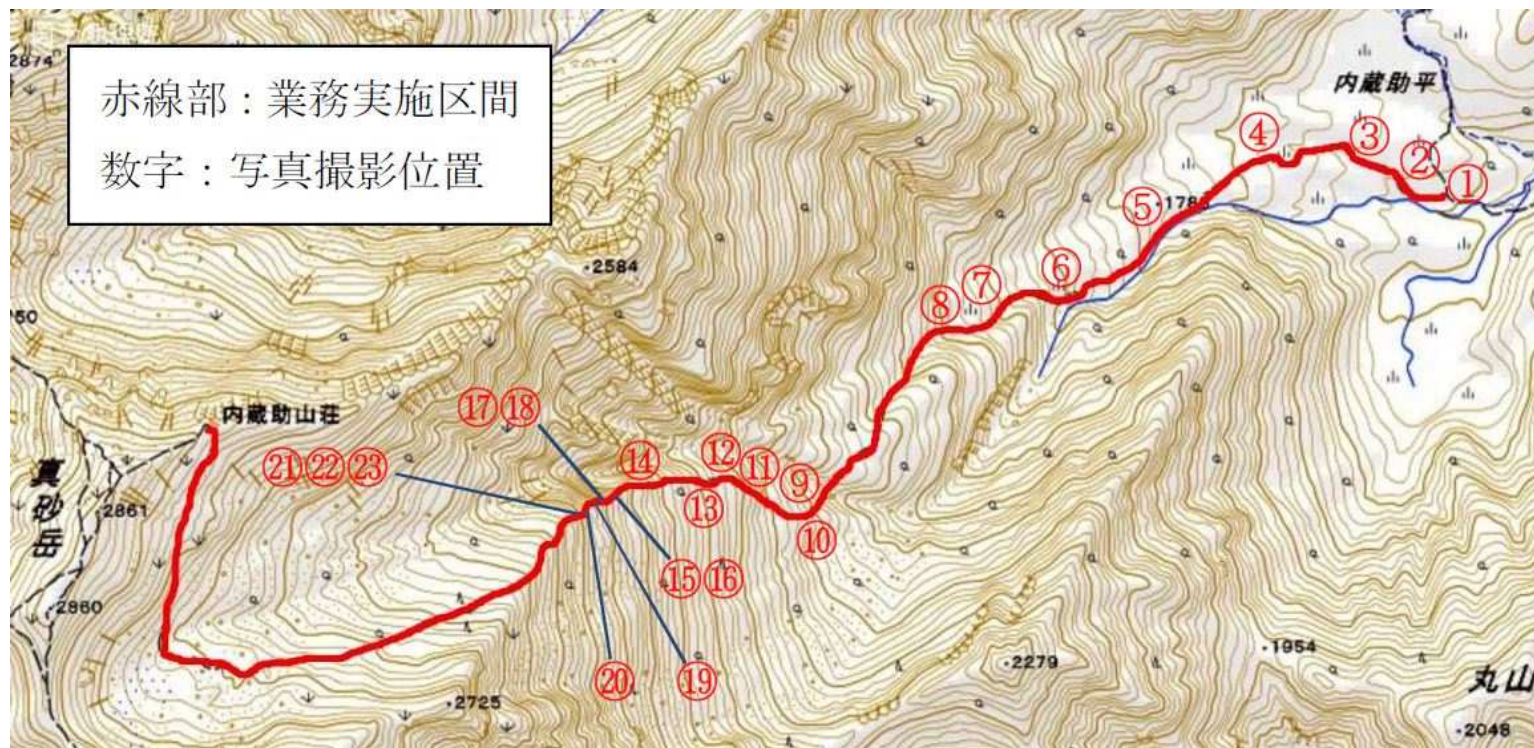


状況



施工後

内蔵助平線歩道 8/21,25-27 12人日



内蔵助平線歩道

8/21 (1名): 資材・機材運搬

8/25 (4名)

標高2370～2450m付近 (写真位置15～23)

登山道刈払い、fixロープの点検・補修



施工前・施工後



施工前・施工後



施工前・施工後

内蔵助平線歩道 8/26 (4名)

内蔵助平分岐～標高1990m付近 (写真位置1～8)
登山道刈払い、登山道マーキングの点検・補修



施工前・施工後



施工状況(藪に覆われていますが、登山道です)

内蔵助平線歩道 8/27 (3名)

内蔵助山荘～標高2450m付近、標高2370～1990m付近 (写真位置9～14)
登山道刈払い、登山道マーキングの点検・補修



施工前・施工後



施工状況(登山道から外れておりません)

仙人ダム劔沢線 9/23-25 6人日



仙人ダム劔沢線

9/24 (2名)

9/23 (2名): 下見、資材・機材運搬

9/25 (2名): 資材・機材運搬(片付け)

登山道刈払い、転石等除去、登山道マーキングの点検・補修

施工前



施工後



まとめ

登山道でも自ら安全確保をしながら登山道維持作業を行うことができる人的資材を現場に投入できた。



「山小屋の負担を軽減しながら登山道を持続可能な維持体制とする」という、事業目的に沿った成果を得られた。



今後ともご協力をお願いします



薬師トレイルクラブ 令和7年度活動報告

設立の経緯

R6.10.8～9

NPO法人富山県自然保護協会主催の折立登山道講習会を実施（GE事業）。
本線における課題を共有認識することができた。
参加者の中から登山道整備団体を作ることができないかと提案があった。

R6.11.15

登山道整備団体の設立に向けた検討を行った。
任意団体「薬師トレイルクラブ」として設立を行う方針が決定した。代表は福山に決定。

参加者：

野川所長（中部山岳国立公園管理事務所長）

勝俣氏（トレイルブレイズハイキング研究所 専務理事）

澤田氏（スポーツのマンゾク 代表）

福山氏（スポーツのマンゾク 社員）

大宮氏（NPO富山県自然保護協会 副理事長）

中森管理官（立山管理官事務所 国立公園管理官）

一ノ枝氏（立山管理官事務所 自然保護官補佐）

R7.2.4

設立に向けた協議を実施。趣意書、次年度の年間計画、関係機関への要望等の確認を行った。

R7.2.15

任意団体「**薬師トレイルクラブ**」設立。

R7.2.19

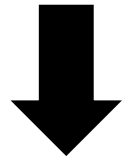
関係機関（北陸電力、富山県森林政策課、富山県自然保護課、林野庁富山森林管理署、環境省立山管理官事務所、太郎平グループ）に「薬師トレイルクラブ」設立の説明会を実施。



国立公園の登山道整備

国立公園内＝勝手に手をつけない

→今までは関わる手段がなかった



北アルプストレイルプログラム制度と薬師トレイルクラブが設立

→富山県側でも身近に関わる機会ができた

新しい山との関わり方



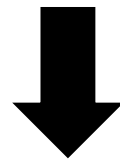
クラブの理念等

日本は登山文化が強く根付く国であり、その中でも北アルプスはたくさんの利用者が訪れるとされている。

また、近年の傾向として利用は国内だけでなく海外からの来訪者も増えている。

国立公園の山岳観光地で生じる**経済効果と環境への負荷はともに極めて大きなもの**でありながら、多くの利用者が使用する各施設を維持管理し続ける体制は多くの場所で十分とは言えない。

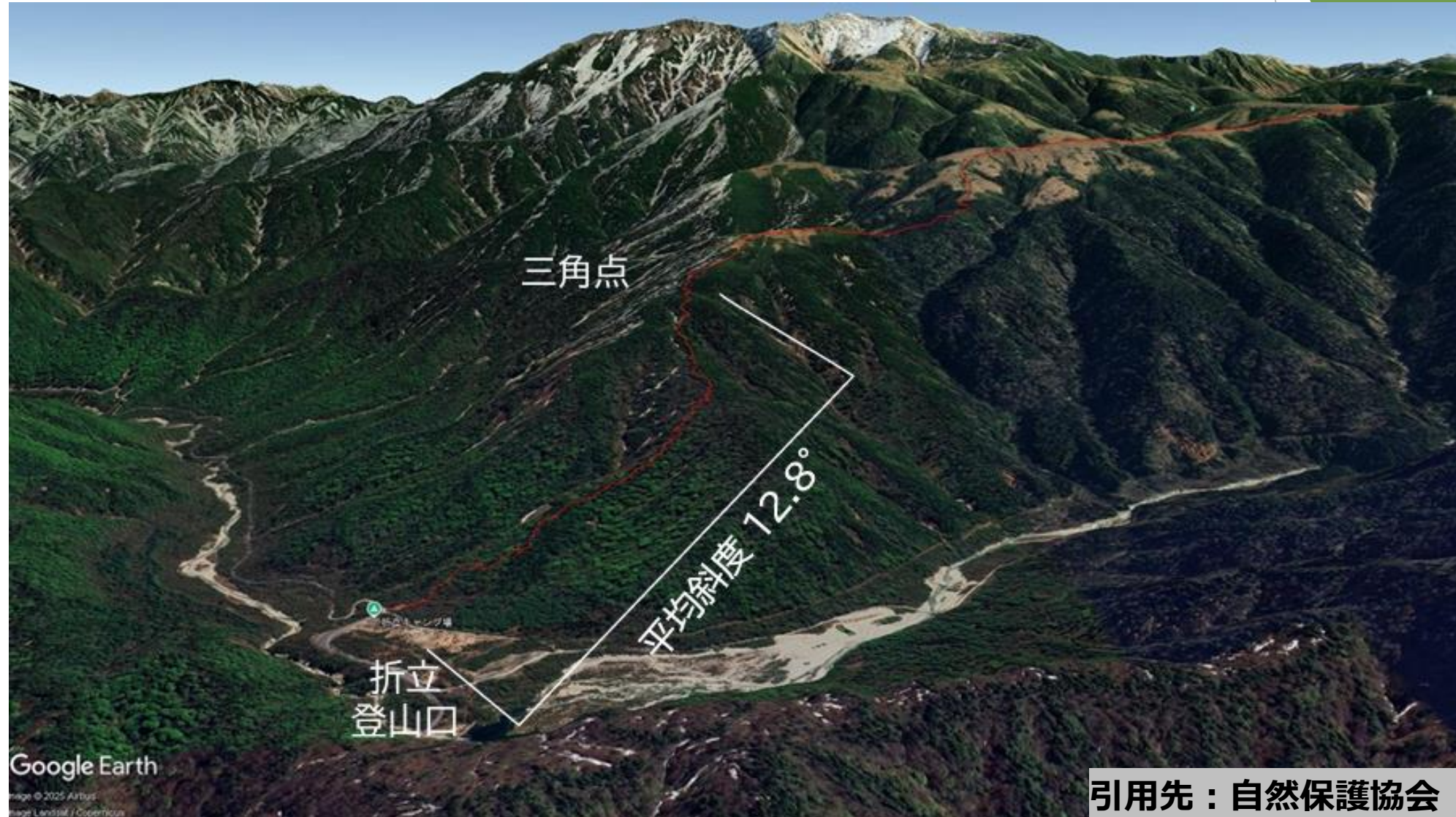
その中でも登山者が自然探勝や登頂を目的として利用する『**登山道**』は、近年のゲリラ豪雨などの異常気象、これまで任意で整備を担ってきた山岳会の高齢化、山小屋経営の不安定化、人材不足などにより荒廃が進んでおり、これらの問題に対して早急な対応を行わないと登山道の荒廃は進行し、利用による消費が進む一方。



登山者が安全に歩けるだけの道を整備するのではなく、**自然と調和し**、北アルプスの**原生的な自然風景の一部**となるような登山道を整備するとともに、これまで利用するだけであった一般登山者を登山道管理にも携わる者として自ら育成することで折立の登山道を**持続可能な形で**維持管理できる仕組みづくりを目指す。

活動場所とその現状

折立登山口～三角点まで
折立太郎山線 約2.0km

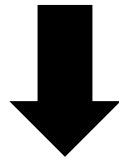


引用先：自然保護協会 大宮氏より



人による踏圧や降雨、霜柱による侵食が激しい
深いところでは1.7m以上の深さも...

深さ **1 m以上**の侵食が **2 5箇所**、 **1 m未満 5 0 cm以上**の侵食が **4 8箇所**確認
(富山県自然保護協会調査結果より)



1回の整備で洗堀を戻すことは不可能に近いため、長期的及び持続可能な整備が必要

薬師トレイルクラブでは
「**近自然工法**」の考え方を主として整備を実施。

令和7年の活動内容

- ・ **モニターツアーの開催**
- ・ **登山道整備作業の実施**
- ・ **他の団体の活動視察及び整備技術の習熟**
- ・ **SNS及びHPでの情報発信**

・モニターツアーの開催

登山者や登山道の問題について興味のある方に
なぜそうってしまったのか、どう直していくのか、登山者には何ができるのかを直接現場を見ることで
知ってもらう。
令和7年は2回実施。



・登山道整備作業の実施

クラブ員だけでなく、ボランティアや外部講師を招き実施。3回計7日間実施。







整備前



整備後

・ 三俣山荘の登山道整備活動への参加



・ 雲の平トレイルクラブの登山道整備活動への参加



活動資金について

- ・ 北アルプストレイルプログラムの協力金
- ・ GGG国立・国定公園支援事業

主な使用用途

- ・ 整備資機材の購入
- ・ 有峰林道通行料
- ・ 整備資材の購入



今後の課題

- ・ 行政、関係機関との連携強化
- ・ 会員、参加メンバーの拡充
- ・ 協力金等だけに頼らない運営資金の確保
- ・ 知識、技術の向上（整備に関するだけでなく）
- ・ 任意団体から一般社団法人へ（法人格の取得）



YAKUSHI
TRAIL CLUB

ありがとうございました



登山道メンテナンス人材育成プログラム 三俣山荘

国立公園

所有者も管理者もバラバラ

「協働型管理」

管理者や保全の担い手不在

担い手（関わる人）をつくりたい！

三俣山荘のプログラム、楽しさ！

リアリティの種類

✓ 今年の参加者想定共有（総勢100名程度）

O:7/4（金）～7（月） ロストアロー、STATIC、ランドネ、個人3名

A:7/14（土）～15（日）北アルプストレイルプログラム

B:7/22（火）～24（木）宮城労山中心（伊藤新道）

C:7/24（土）～26（日）宮城労山中心（祖父江）

D:7/26（土）～7/29（火）※山荘メンバー、富田、秋田でクロマメ小屋泊、伊藤新道整備

E:8/2（火）～3（月）TOKYO GREEN、山と溪谷館、個人4名

F:8/29（金）～9/1（月）TOKYO GREEN、他

※クロマメ小屋整備（フィールドを守りながら楽しむ、楽しみながら守る）

G:9/2（火）～7（土）チーム赤田（ボランティアでは難しいテクニカルな作業）

H:9/2（火）～5（金）patagonia、CLAMP、土屋、広太、大田、平林、佐藤、みちのくトレイル

I:9/5（金）～8（月）TOKYO GREEN

J:9/23（火）～26（金）北アルプストレイルプログラム、大町市

K:9/24（水）～25（木）STATIC、5floor、サンカクスタンド、SUNDAY、ストライドラボ高尾

参加者：111名

一般ボランティア：59名

山関係のメーカーやショップやメディア：36名

北アルプストレイルプログラム関係：16名

参加者推移：

12名（2022年）→37名（2023年）→75名（2024年）→111名（2025年）

+ 山荘スタッフ：23名

2025年度人材育成プログラム

参加者：11名

実地での研修・自然観察・道直し@三侯山荘

7/15～18（1グループ目） 9/23～26（2グループ目）

**国立公園の登山道をめぐる課題や取り組みイメージ共有（環境省）と、
三侯山荘の道直しプログラムを通じた実地体験**

オンラインワークショップ

2/3（1グループ目）、2/5（2グループ目）

参加者が各地で見た登山道の良い事例や悪い事例などを写真共有。参加者・講師・環境省などから様々な視野や類似事例や知識や考え方を共有する機会となった。



三俣山荘の道直し
「風景と道直し」

LOW
IMPACT
HIKING

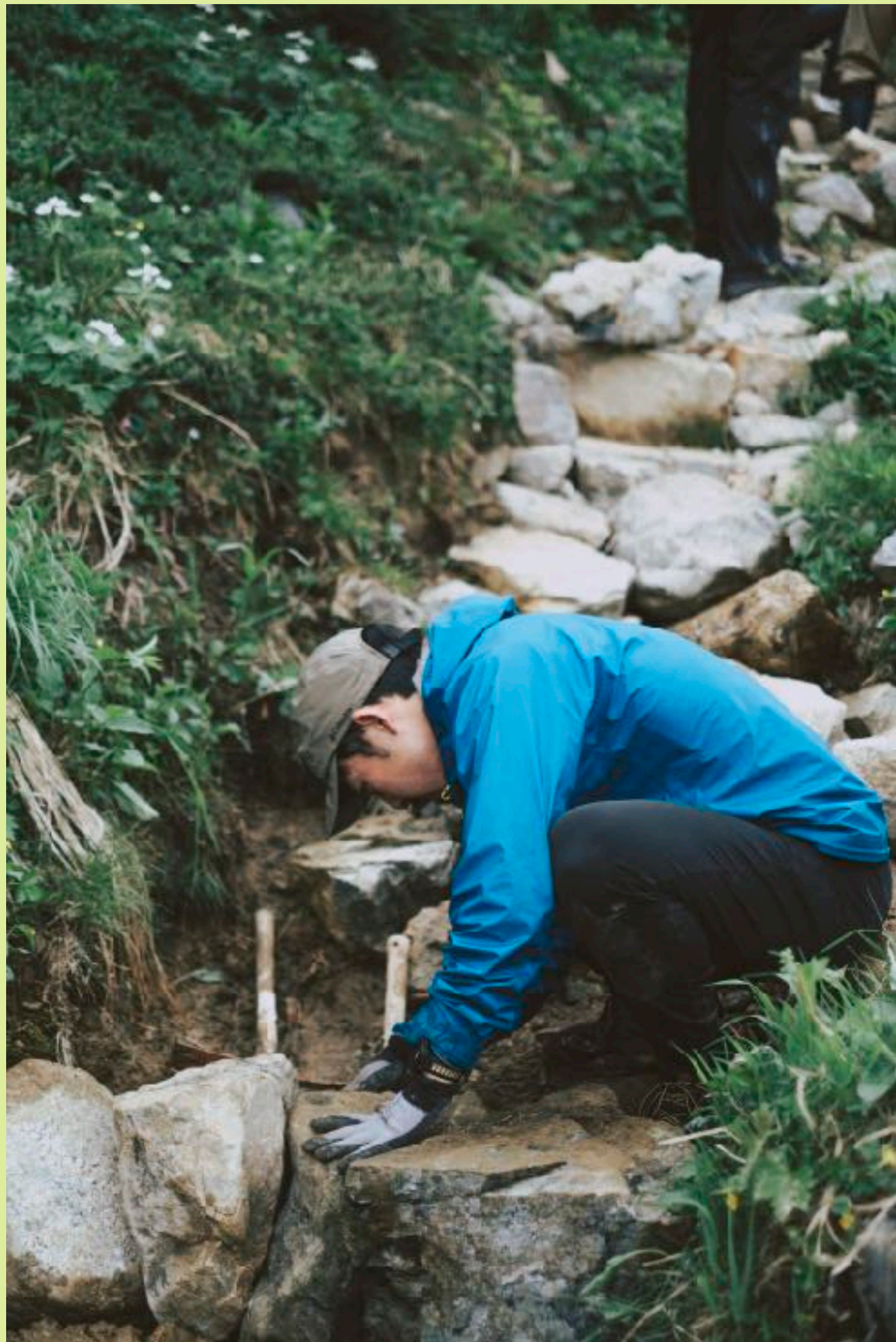






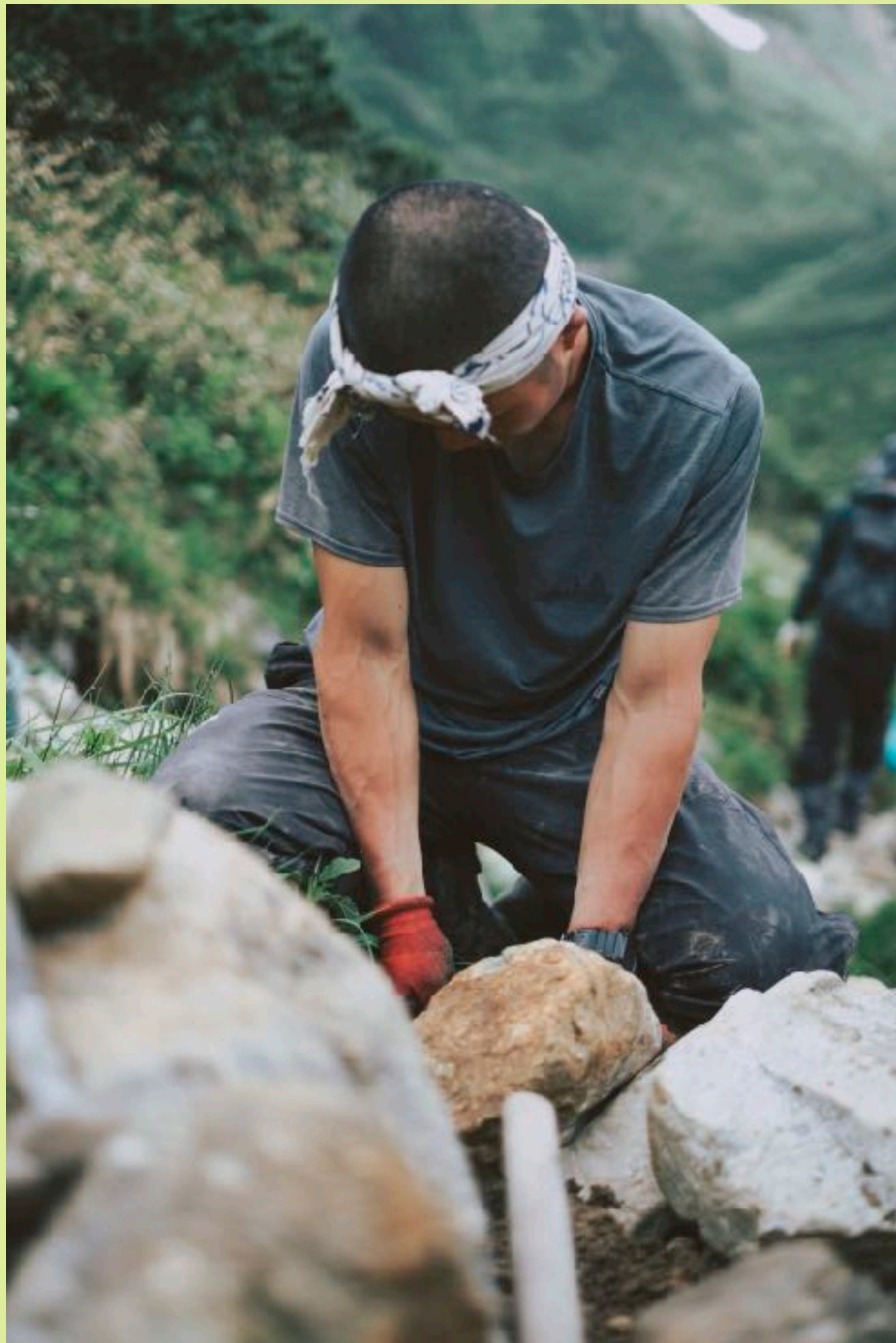






















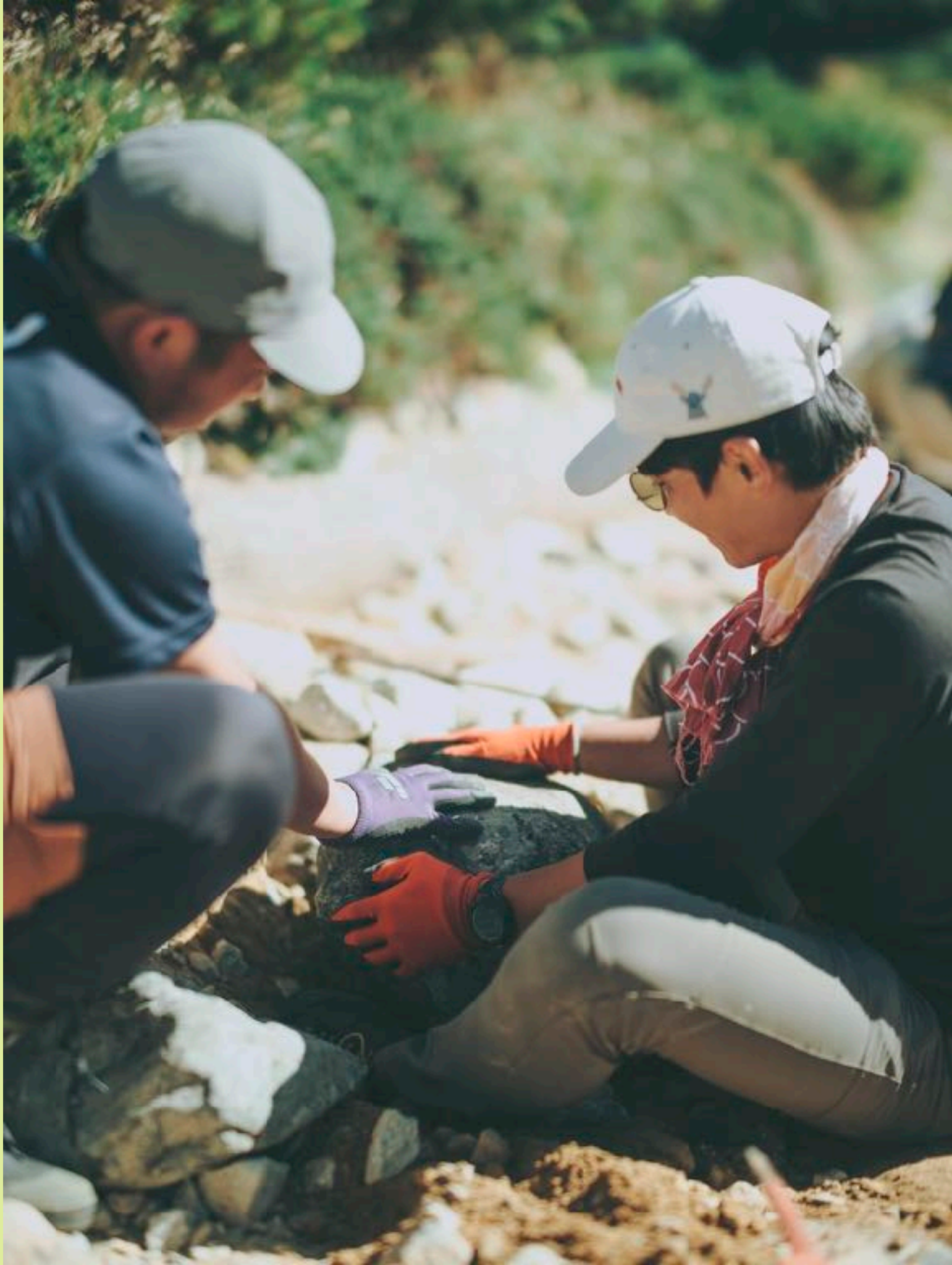




















**LOW
IMPACT
HIKING**

三俣山荘 TRAIL MAINTENANCE JOURNAL 2025

2025年の道直しとこれから



美しさを求めて

それは風景についてのことでもあるし
関わる人たちについても同じなのだろう
美しい風景がいかに保全されるかは
「楽しさ」そのものを体感できるかに
かかっている



三俣山荘の道直しは今こんな感じ



あいかわらず楽しく、もっと面白く、より本質的に、美しく。

然るべくして道直しが多面化しつつある。ボランティアプログラムが育って子供が生まれたような気分だ。ワクワクふわふわ？ちょっとゆるいけど、図のようなテーマが芽を出している。一つひとつが面白くなってくるだろう。様々な方面から、より一層多くの方に関わっていただけたらと思う。一方、それらが遠心力にならないように注意したいし、私たちが立ち回る場所は山の風景とその美しさであることをあらためて銘記しておきたい。自然の美しさは、複雑だけどいつもシンプルなのだ。それに倣うように。

どこへ向かうのか

2025年は道直しをどのようにシフトすべきかを始終意識した年だった。それはここ数年でやってきた活動への反応や変化が現れてきたからだ。概ねそれらは嬉しい反応や変化ではあるのだが、どんなことでもそうであるように、うまくいっているように見えることに落とし穴は潜んでいる。具体的には、三俣山荘の道直しの一つの特徴とも言える「楽しさ」がそう。確かに楽しくやっているし、道直しは楽しい。けれど、楽しいからやっているのとは少し違う。それは本来、切実なのだ。あるいはボランティアプログラムも好評いただいており、よりエンタメ化した形を求める声もある。でもその方向へ行くことはない。私たちは確かに参加者の体験を深めるためにその質を高めようとしてきた。けれど、それは風景の美しさを未来につなぐためなのだ。北アルプスにおいて、これまで半世紀にわたり、山を好きな人たちが風景を消費してきたことを思うとき、無邪気に道直しまで消費させることはできない。風景の美しさをつなぐことを目的としている道直しの行く先は、道直しではない。

本ジャーナルおよび掲載内容についてのお問い合わせ先

三俣山荘（石川・伊藤）
E-mail: office@mitsumatasano.com

2025年に三俣山荘周辺での道直しを行った132名の皆さん

山小屋スタッフ | 石川典子、伊藤敦子、井上彰、井上実花、江川七虹、岡部りえ、加藤岳、木嶋麻人、木原恵美、児玉太一、島川萌実、千葉木の吏、田村壽宏、島越悠美、野澤優太、服部沙也加、境さやか、平山大幹、藤内美貴、南塚磨、村井隆彦、山代瑞紀、横尾楓、渡辺雄

ボランティア参加者等 | 梶子雄一、赤田幸久、赤岡弘記、秋山愛、秋田理沙子、秋山正樹、浅見智理、阿部仁志、荒川弘樹、五十島典空、石塚二郎、石森康一郎、一ノ枝亮輔、岩浅有記、上野要平、内野希弥、浦島悠太、及川成一、大田一稀、大宮徹、岡勝子、岡良一、加藤広太、加藤望、門崎博行、川合康太、河谷俊輔、喜多舞衣、北村豪史、木本日菜子、倉科貴一、黒崎昌彦、黒田寿紀、小泉勝徳、小島雄人、兒玉薫矢、小西拓海、小南祐介、坂下由美子、坂本志津枝、櫻岡駿、佐藤順一、佐藤ともみ、澤井俊夫、篠原沙、渋谷里子、清水恵美、新名健太郎、杉下詩織、鈴木健悟、鈴木満男、角倉翔一、関正樹、高橋篤、高橋敏夫、武田五輪江、武田正利、田口航太、田中健介、土屋智哉、寺崎剛、寺刀章雄、徳岡佐知香、富田純典、戸谷悠、中里竹子、口島俊弥、長沼菜摘、中水高博、中村晶洋、中森健太、西岡奈津実、西本康二、西崎馨、野川裕史、青本尚紀、橋本龍平、花岡凌、沢小路ダニエル、久木万恵奈、記谷唯希、平井航、平林真希、深田勢子、深谷奨、深谷倫也、堀山寛大、藤崎吉伊、降旗梓、星悠樹、松村峻平、松村智生、鎌倉理、宮川かつえ、宮坂充明、宮原百理、宮本武彰、持田和徳、安原あかね、山崎敦、山崎陽悟、山崎穂波、山崎ゆめか、山崎知可奈、山田紗友美、山本健太、山本大貴、米山太雅、渡邊もも

（敬称略、50音順）

2026年も道直しボランティアを募集します！

2026年シーズンも道直しボランティアを募集します。ご興味をお持ちの方は下記ご参照の上、問い合わせ先までご連絡ください！

受け入れ時期

7月中旬から9月末までのあいだで道直期間を設定。

滞在日程

- 1日目：入山+オリエンテーション（座学）
- 2日目：自然観察会+実作業+振り返り会
- 3日目：実作業+振り返り会
- 4日目：下山

主要参加条件

- ・実施期間のいずれかに合わせた3泊4日で、三俣山荘に滞在できる日程を確保した上で参加可能であること。
- ・自力で現地まで往復し、作業をすることのできる体力があること。
- ・体験を深めるため、実作業のみならず、オリエンテーション、振り返り会、および他参加者やスタッフとの意見交換を重視できること。
- ・事前に「風景と道直し」（三俣山荘での道直しについての冊子）を読んだ上で参加すること。

宿泊費用について

- ・ボランティアの三俣山荘宿泊費は7,000円/泊（3食付）→3泊4日で21,000円 ※ボランティア保険料込。現地までの旅費や「風景と道直し」購入費用は別途各個人負担。







国立公園

所有者も管理者もバラバラ

「協働型管理」

管理者や保全の担い手不在

担い手（関わる人）をつくりたい！

三侯山荘のプログラム、楽しさ！

リアリティの種類

山と私たちの対話：雲ノ平の環境保全活動

2026年 北アルプストレイルプログラムの活動について



雲ノ平山荘・雲ノ平トレイルクラブ
代表 伊藤二郎

伊藤二郎 自己紹介

1981年 東京生まれ 幼少より黒部源流域で夏を過ごす

2002年 父・伊藤正一が経営する雲ノ平山荘を引き継ぐ

2010年 雲ノ平山荘の建て替え工事を企画・主導

2020年 アーティスト・イン・レジデンス・プログラム始動

2021年 登山道整備ボランティアプログラム 始動

翌年、一般社団法人雲ノ平トレイルクラブを設立

2023年 雲ノ平サイエンス・ラボ 始動

近年は山荘を舞台に、芸術、自然科学、人文学など

多分野を巻き込んだ活動を展開し、

新しいアウトドア文化や環境保全のあり方を模索している。



北アルプス 雲ノ平山荘 代表

一般社団法人雲ノ平トレイルクラブ

代表理事

Google Earth

Data Japan Hydrographic Association, Data SIO, NOAA

富山市

北アルプス

▲立山

●雲ノ平

▲鹿島槍ヶ岳

大町市

▲槍ヶ岳

▲奥穂高岳

●上高地

松本市

▲乗鞍岳

雲ノ平は北アルプスの最奥部
標高およそ2600mに位置している

























2022年
一般社団法人
雲ノ平トレイル
クラブ設立



雲ノ平トレイルクラブの目的

山岳自然景観、生態系の崩壊の
営みに調和するビジョンの醸成
民間レベルの連携を強化し、
実践的な視点で問題の解決を目指す
利用自然環境をめぐる
著し創造的な文化の形成

国立公園の構造的問題

日本では自然保護世論が弱い



行政の予算規模・人的資源が少なく
国立公園の包括的な管理ができない



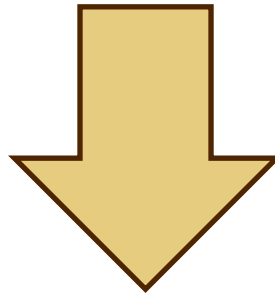
国立公園の
管理・運営

自然保護・教育よりも観光利用に偏った形で発達
民間団体（山小屋・山岳会等）の活動(自助)に依存

しかし、この構図にも限界が訪れている

気候変動

急速な
登山道荒廃



山小屋や山岳会の
存立基盤の
不安定化

管理体制の空洞化による危機的状況

包括的な社会システムとして
国立公園の維持管理体制の再構築が必要

加速する登山道の荒廃



高山地帯の生態系は繊細
寒冷で土壌の生産力が弱い
ため表土が薄い



人の踏圧がきっかけで裸地化が始まると、環境要因(降雨、融雪、霜など)で侵食は拡大していく

放置・技術不足・ビジョンの欠乏



これまでの登山道の維持管理体制

問題点

山小屋や山岳会
による自助



- 経営基盤の不安定化や人材不足で持続性が低く、質も担保できない
- 正式な権限はなく大きな問題には対応できない

公共事業



- エキスパート不在で現状把握できず適切な事業計画が立てられない
- 少ない予算を有効活用できず自然破壊的な結果になることも

民間団体、学術機関



- 参画を促す仕組みがない
- エキスパート不在で技術不足
- 社会的な要請が弱く研究分野としても低迷している

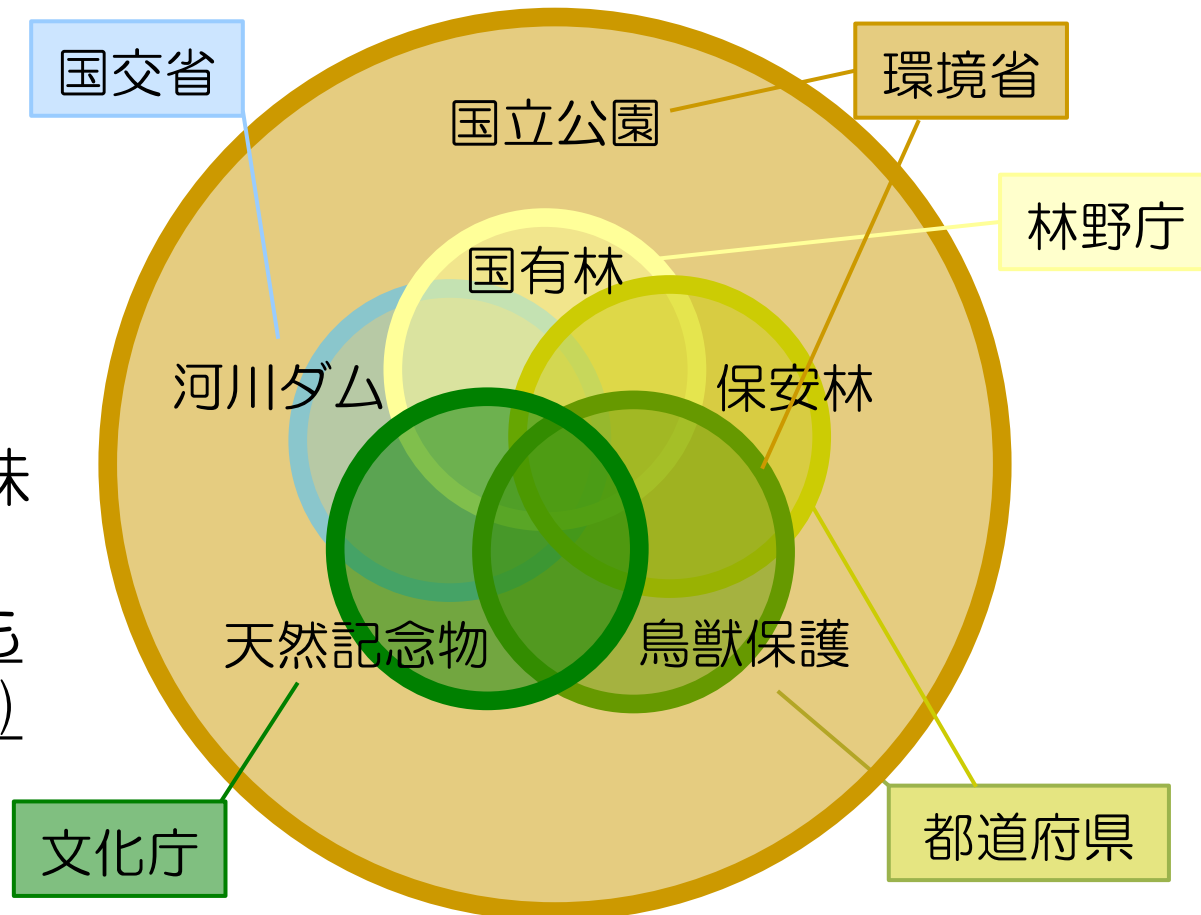
法制度・縦割り行政が抱える問題

登山道の管理責任の所在が不明

国立公園内に
目的の一致しない
行政機関が混在

登山道の管理責任の
所在、役割分担が曖昧

エキスパート(誰が)も
管理水準(どのように)
も不在



国立公園とは 欧米と日本の比較

	アメリカ イエローストーン 国立公園(NPS)	イングランド ピークディストリクト 国立公園(NPA)(※2)	日本 中部山岳国立公園 (環境省)
公園の種類(※1)	営造物	地域制	地域制
予算(年間)	90億円	20億円	非公表
正規職員数	330人	280人	10人
面積	8,991km ²	1,438km ²	1,743km ²
来訪者数(年間)	400万人	870万人	915万人
経済効果(年間)	380億円	770億円	統計なし
全国の国立公園 予算(年間)(※3)	2,600億円	110億円	83億円
全国の職員数	20,000人	1,100人	300人
全国の国立公園数	59	10	34

※1) 営造物公園…土地の所有を含む一元的な管理体制

地域制公園…土地の所有者に関係なく、その区域を公園として指定

※2) イギリス全土ではなくイングランド内の国立公園

※3) 自然公園の整備費 〈出典〉平成27年度環境省予算案事項別表、National Park Service(2015年)、Valuing England's National Park(s 2011年)

自然環境を評価する価値指標

価値の基盤を作る営み

弱

芸術表現
(景観学、
美学)

自然科学
(生態学)

人文社会学
(環境学、
環境心理学)

価値を利用する営み

強

アウトドア
・観光開発

価値を消費する営み

強

産業開発
資源利用

日本では「自然」を評価するための価値基盤が弱いため、
自然保護もアウトドア関係者の「趣味の問題」と見られがち…
価値観の基盤から作っていく必要がある

山岳地の公共事業の問題

- エキスパート不在、事業全体のコーディネーターがない
- 実践的な技術、景観評価基準などが確立していない
- 事業を評価する方法、人材が不在
- 単年度予算のため事業の継続性がない
- 担当者が2～3年ごとに入れ替わり、整備方針や予算配分が変わる



現場に合わせた
柔軟な施工ができない

従来の工法の課題

不用意な構造物は
自然を壊す



従来の工法の課題



従来の工法の課題



以前の工事が機能せず
崩れた箇所に、さらに資材
を積み上げる…

従来の工法の課題

無機質な階段工は自然体験
を「筋トレ化」し、
景観を壊してしまう。

不定形な地形に直線的な
構造物をあてがっても土留効果が薄い



自然体験の理解不足は環境荒廃を加速させる



階段が歩きやすいとは限らない

放置され危険な状態の構造物



維持管理の発想の欠如

景観の美しさ…？

自然公園法 第1章第1条

「優れた自然の風景地を保護するとともに」とあるが…



コストの問題

大量の物資、多額のコストを要する
整備は持続しない

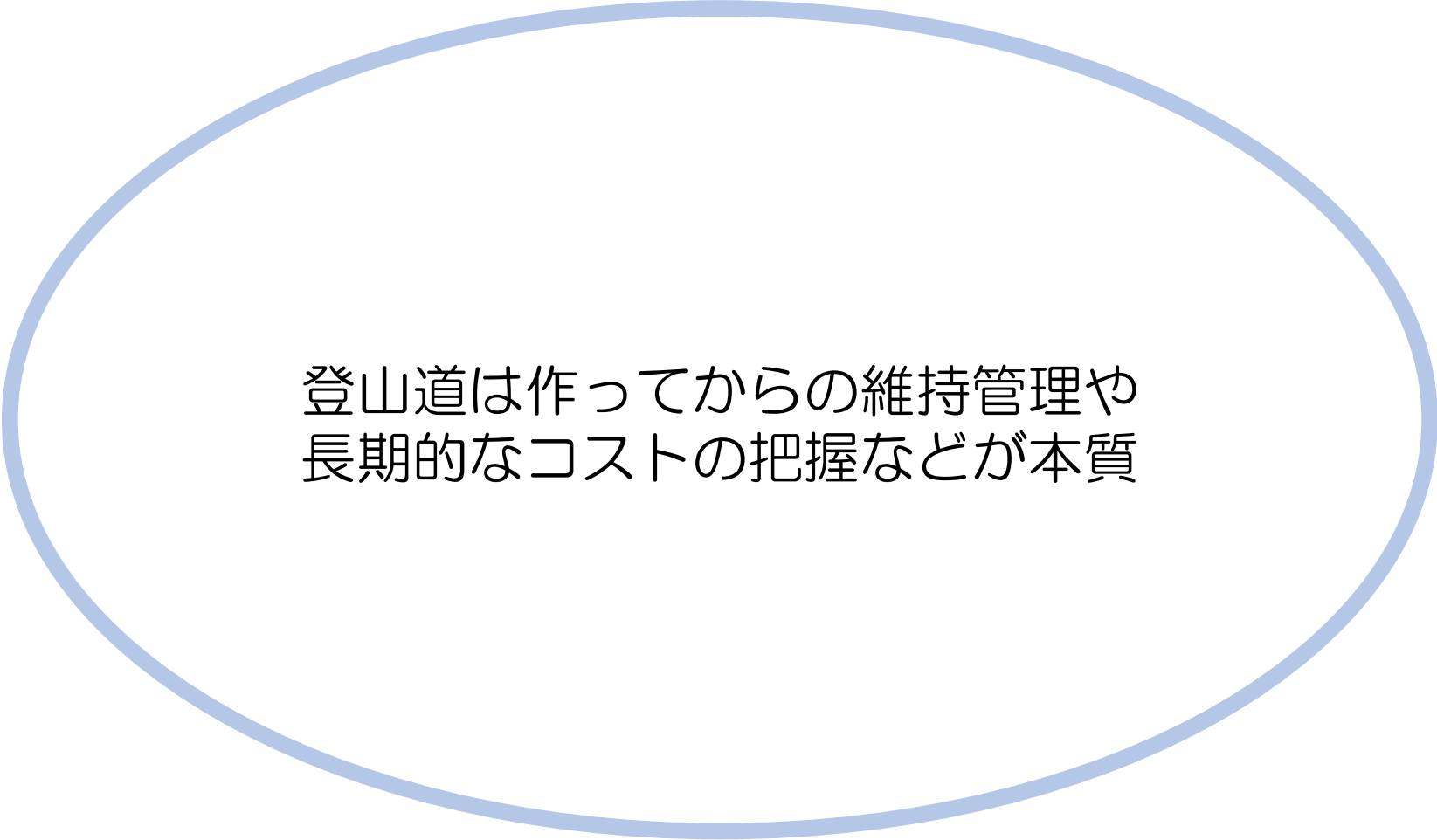
人工的な構造物には明確な寿命がある。

例えば木階段の寿命を20年間とする。

5000万円を投じた工事を20箇所で行えば、
毎年作り直す作業が発生し、毎年5000万円かかることになる。

作り直す場合は残材の撤去も発生するため、
労力もコストも大きくなる。

これを100箇所で行ったとするとどうなるか？



登山道は作ってからの維持管理や
長期的なコストの把握などが本質

自然体験(美しさ)とは何か

近代化(機械化)の中で失われる生態系(環境)への感性を回復する
土、水、動植物、気候などが織りなす景観の美しさ
自然の変化・多彩な刺激を感じて、心や身体を活性化させる

「歩きやすさ、利便性」(手段)が先行すると、自然体験(目的)が壊れる。



景観＝生態系

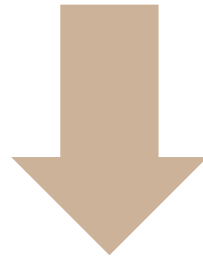


景観を改変するということは、生態系を改変すること

これからの登山道整備に求められること

自然に寄り添える人材の育成
定量的な計画では成り立たない

現状と理想の
乖離を
まずは認識する
必要がある



侵食や裸地化の原因を的確にとらえる観察眼
生態系・景観・歩きやすさを一体的に扱う感性

PDCA以前の問題として

【何を、なんのために、どのように、誰が】行うのか、
明確化できていない。

その上で、どの制度に裏付けられて、どういう管理水準で、
どれくらいのコストがかかるのかが議論できる。
PDCAはその前提の上で成立する。

「何を」(景観・生態系)、
「何のために」(学び、楽しむために)、
「どのように」(生態系を壊さないように)

いかなる仕組みが必要なのか、考える

「共助」を育む必要性

現状では単独で事態を打開できる主体はいない

自助(既存の体制)・共助・公助のうち
現在可能性を見出せるのは「共助」

山小屋・企業・民間団体・行政・学術機関etcの協力

今は現場からムーブメントを
生み出していくしかない



雲ノ平周辺の植生荒廃





木道の荒廃

植生荒廃のメカニズム

高山帯の様々な環境圧



微生物の活動が弱く、土壌が生成されづらい。

数万年で30cmに満たないことも。

1

登山道ができる前

植生がクッションとなり、水は地表面を流れると同時に地下水源を形成する。

2

登山者の踏圧

植生が剥がれ
表土が露出



3

雨水が集まる

従来は全体で受けていた雨水が登山道に集まり、みずみちになる。



ぬかるみを避けて歩く

複線化



登山道の複線化

4

浸食溝の拡大

複線化した登山道が広がり、大きな浸食溝になる。



流水で洗掘が進む

5

裸地の拡大

表土が流れ、残った植生との間に段差ができる。



雨・雪・霜などで地表面がさらに崩れ、裸地が広がっていく。

雲ノ平山荘と東京農業大学による 植生復元活動（2007～）



雲ノ平の植生復元活動の考え方

自然界の構造にのっとると
生態系が自発的に再生する

構造的にも堅牢なものになり景観の美しさも伴う
最終的に人為的な工作の形跡が残らないあり方



土木的な工法ではなく
造園的な方法論が必要

雲ノ平で実践している施工方法：土留ロール工法



景観を作ること

土留ロール工法の施工手順



適切な長さにネットを切り、
転石、松葉を並べる



転石を巻き込みながら
ネットを海苔巻状に巻く



内部で遊びが出ない様に
固く巻くのが重要



ネットをほぐした紐で
端を結び合わせる



形が崩れないように運ぶ



侵食された法面に固定



経年変化の予測



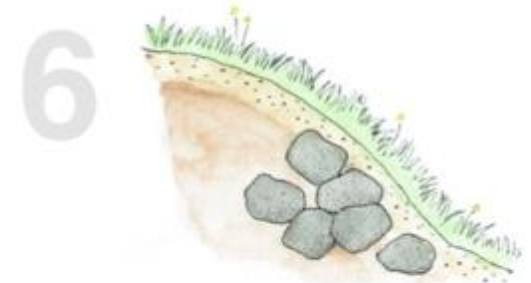
上部の土壌ががロールに覆いかぶさり始める



上部の現存植生及び自然散布より発芽



浸食面がなだらかな地形となり植生域が広がる



浸食面の部位が完全になくなり、植生が密になる



2006年



2009年



雲ノ平で実践している施工方法：堰



施工後の 経過予想：堰



2023年 施工前



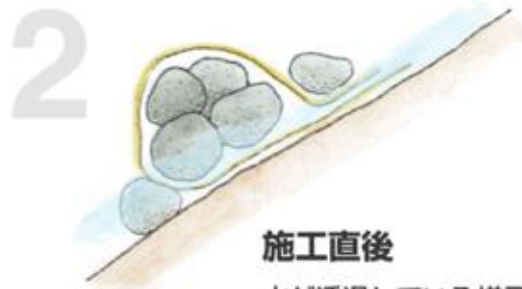
2023年 施工直後

水流が中央付近に集まる
ようややU字形に堰を形
成する

水が二次侵食をお
こさないように山側の両
端(法面)を石などで保護
する

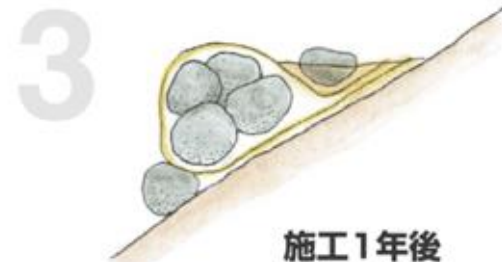


施工前



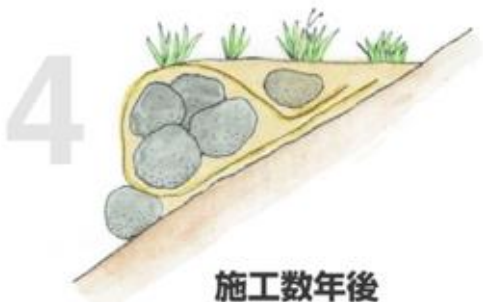
施工直後

水が透過している様子



施工1年後

上流側で土壌がたまる



施工数年後

さらに土壌が堆積し、
自然散布より発芽



施工十数年後

堆積した土壌がなだらかにな
り植生域が広がる



施工数十年後

植生域が広がる

従来工法



丸太の下部が浸食され、
堰としての機能を果たしていない

実施工法



表面水をゆっくり浸透させ
土壌をせき止めつつ、
周囲の土壌流出も起きない



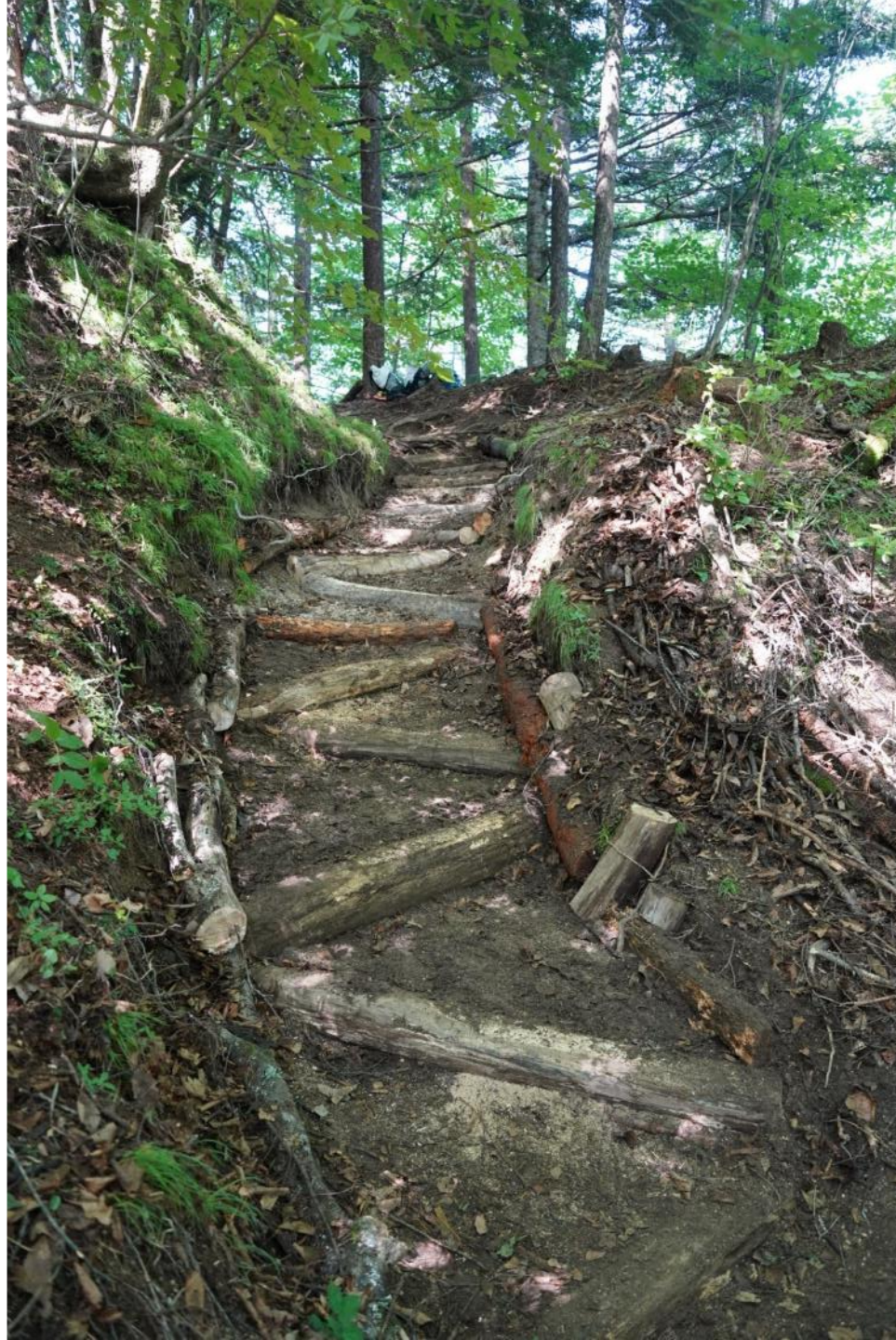
雲ノ平で実践している施工方法：伏工



北杜山守隊
による
近自然工法
の事例



北杜山守隊
による
近自然工法
の事例





2022年
一般社団法人
雲ノ平トレイルクラブ設立

国立公園の管理体制の再生

民間(トレイルクラブ)

- 山小屋 → 技術や経験の伝達、現状把握、人材供給、滞在環境の提供
- 登山道専門家 → 技術指導、人材育成、普及啓発
- 学術機関 → 学生の参加及び人材育成、技術や法体系の研究、学会や行政の巻き込み
- アウトドア企業 → 資金援助、人材育成、ユーザー及び業界への普及啓発
- 環境コンサル → 登山道の管理台帳の制作、データの整理、協議会での情報共有の基盤づくり
- ボランティア → 市民の参加、人材育成、社会の当事者意識の活性化、視点の多様化

協議会の 設置

協働型管理体制の確立

相互監視、相互研鑽の関係性

行政

環境省、林野庁、地方自治体

雲ノ平トレイルクラブの具体的な役割分担

雲ノ平トレイルクラブ

現場

登山道調査

トレイルクラブによる登山道整備

登山道整備専門家による技術指導

普及啓発

技術体系の確立

学会やアウトドア業界内でのセミナー・勉強会の開催

管理台帳の作成

多角的な情報発信

課題の洗い出し

自然体験活動促進
協議会

管理計画の策定

事業評価

行政

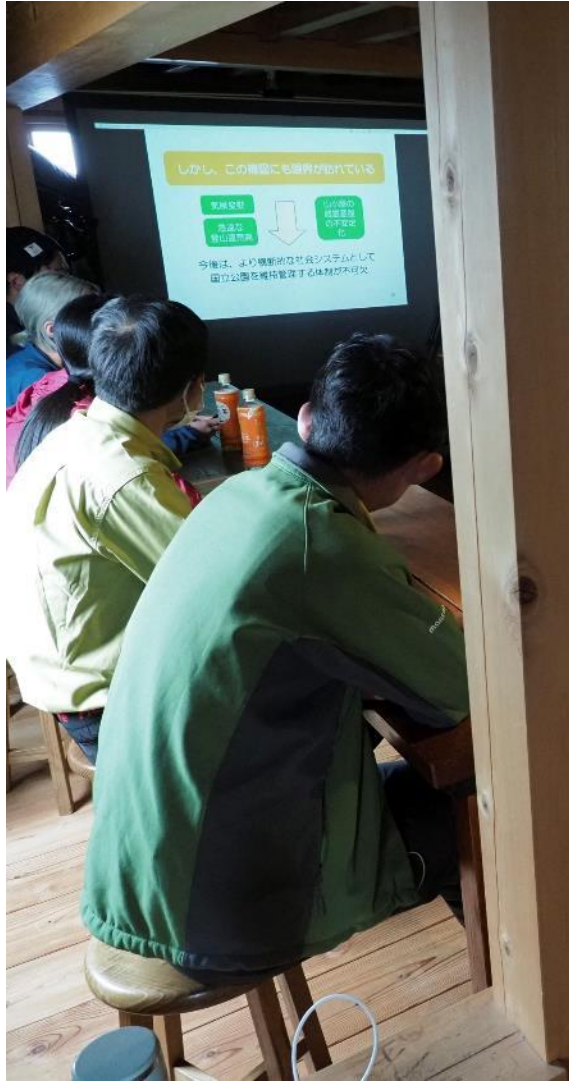
実効的な
制度運用

登山道整備
に関する
許認可

協議会を
通じた現状
共有

資材調達

資材運搬





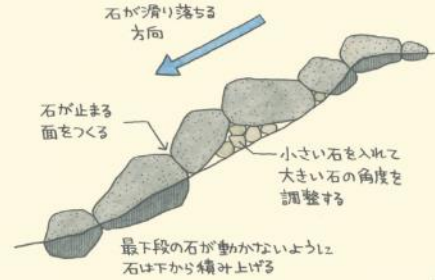
2021年 祖父岳登山道 近自然工法による石積み





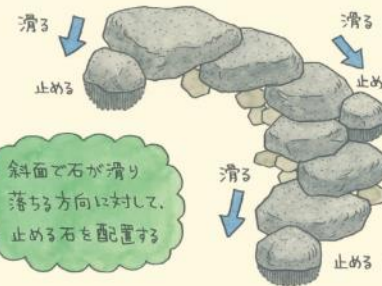


..... 石組みのポイント



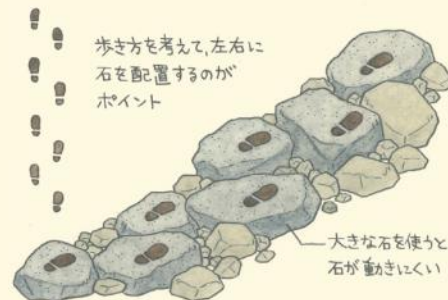
大きい石と小さい石を使い分ける

下から積み上げる



重心を理解する

歩き方を想像する



2022年 祖母岳 決壊した池塘(景観)の修復作業







木道の修繕



休憩スペースの整備



2026年 祖父岳山麓登山道の植生復元







2021年
登山道整備
ボランティアプログラム始動



山小屋、アウトドア企業、専門家、
環境コンサルや学術機関、ボラン
ティア、行政など、様々な主体の
横のつながりを強化することで新
たな可能性を生み出す取り組みと
して2021年に始動した。













祖父岳登山道
近自然工法による石積み







木道付け替え工事







各地に芽生えた新たな活動



**YAMA
LIFE
CAMPUS**
YAMAP クラフコミュニティ

YAMA LIFE CAMPUSとは 特設 こんな人におすすめ 募集中の講座

トップページ 登山道整備隊





雲ノ平トレイルクラブ



北杜山守隊



株式会社ヤマップ



パタゴニア日本支社



株式会社ハイランドデザイン



グループワーク

■ テーマ

『持続可能な登山道のために私たちができること』

※発表を踏まえ、登山道の維持のためにできることについてご意見をお聞かせください。

■ 協力のあり方

①現状を理解する。



- ②費用面で参加する。
- ③労働面で参加する。
- ④登山行動を見直す。
- ⑤登山道の状況を報告する。
- ⑥利用者として意見を届ける。
- ⑦取組を広める。

＜利用者参加型イメージ＞



■ グループワークの進め方

- ・事務局職員が各班の進行役を務めます。
- ・自己紹介から始めていただき、各班での意見交換を進めてください。
- ・テーマ（持続可能な登山道のために私たちができること）に関するアイデアや意見は付箋に書き出し、各参加者の意見が見える状態で進めてください。
- ・時間は **1 時間** です。
- ・最終的にはグループで出た意見を取りまとめていただき全体発表をお願いします。
（1 グループ 2 分程度）
- ・立場や年齢関係なく、フラットな場であることを意識して発言をお願いします。
- ・人の意見に対する批判はしないようお願いします。

